

第20 連結散水設備

連結散水設備の設置に係る工事が完了した場合における試験は、次表に掲げる試験区分及び項目に応じた試験方法及び合否の判定基準によること。

ア 外観試験

試 験 項 目		試 験 方 法	合 否 の 判 定 基 準
送 水 口	設置場所等	設置場所等	a 消防ポンプ自動車容易に接近することができる位置に設けてあること。 b 専用であること。
		設置高さ	a 地盤面からの高さが0.5m以上1m以下の箇所又は地盤面からの深さが0.3m以内の箇所に設けてあること。 b 送水に支障のない位置に設けてあること。
		表示	直近の見やすい箇所に連結散水設備の送水口である旨の表示がしてあること。
	機 器	送水口等	目視により確認する。 a 口径は、呼称65でねじ式のめねじ又は差込式の受け口が設けられていること。 b 双口形であること。ただし、送水区域が1で、かつ、一の放水区域に設ける散水ヘッドの数が4以下の場合は単口とすることができる。 c 変形、損傷、つまり等がなく、防護器具等で有効に保護されていること。 d 消防庁長官が定める基準に適合していること、又は総務大臣又は消防庁長官が指定する指定認定機関の認定を受け、その表示が貼付されていること。
		逆止弁等	a 送水口には、操作しやすい箇所に逆止弁及び止水弁が設けられていること。 b 乾式にあっては、逆止弁のみとし、配管の最下端部に排水弁が設けられていること。
送 水 区 域	送水区域の設定	目視により確認する。	適正であること。
		送水区域が隣接する場合	隣接するいずれの送水区域に対しても送水できる措置が講じてあること。
一 斉 開 放 弁 ・ 選 択 弁	設置場所等	一斉開放弁	a 火災により被害を受けるおそれのない場所又は耐熱効果のある方法により保護してあること。 b 点検に容易な位置に設けてあること。
		選 択 弁	a 火災により被害を受けるおそれのない場所又は耐熱効果のある方法により保護してあること。 b 点検に容易な位置に設けてあること。 c 選択弁にあっては、送水口付近で、かつ、容易に操作できる位置に設けてあること。 d 送水区域が2以上ある場合の選択弁は、同一場所にまとめて設けてあること。
	機 器	一斉開放弁	a 検定品であること。 b 加圧及び選択弁等により作動するものであること。
		選 択 弁	a 有効な防護措置が講じてあること。 b 開閉方向及び選択弁である旨の表示があること。
送 水 区 域 ・ 設 置 状 況		目視により確認する。	a 一の送水区域内の散水ヘッドは、同一種類のものであること。 b 一の送水区域において、開放型ヘッドにあっては10以下、閉鎖型ヘッドにあっては20以下であること。
散	設置方法	配管への取付	目視により確認する。 変形、損傷等がなく、ヘッドの取付面に対して直角に取り付けてあること。

水 ヘ ッ ド	機 器	配 置 等		適正であること。
		開 放 型 ヘ ッ ド	目視により確認する。	消防庁長官が定める基準に適合していること、又は総務大臣又は消防庁長官が指定する指定認定機関の認定を受け、その表示が貼付されていること。
		閉 鎖 型 ヘ ッ ド		検定品であること。
配 管 ・ バ ル ブ 類	設 置 状 況		目視により確認する。	変形、損傷等がなく適正に設置されていること。
	機 器	配 管	目視により確認する。	専用であること。
		口 径		一の送水区域の散水ヘッドの個数に応じたものであること。
		材 質		a 管は、J I S G 3442、G 3452、若しくはG 3454に適合するもの又は同等以上の強度、耐食性及び耐熱性を有するものに亜鉛メッキその他の耐食措置を講じたものであること。 b 管継手及びバルブ類はJ I S G 5101若しくはG 5702に適合するもの又は評定に適合した旨の表示が付されているものであること。
		支 持 金 具		堅ろうで、かつ、耐熱性を有すること。
		制 御 弁		開放型ヘッド及び一斉開放弁を用いている配管には、当該ヘッドと一斉開放弁の間に開閉方向を表示した制御弁が設けてあること。
		逆 止 弁		流れ方向を表示した逆止弁が設けてあること。
		排 水 弁	閉鎖型ヘッドを用いるもの	
開放型ヘッドを用いるもの			一斉開放弁と制御弁の間にそれぞれの放水区域ごとに一斉開放弁及び選択弁を試験できる排水弁が設けてあること。	
		主 配 管		最下部に排水弁が設けてあること。
表 示 等			目視により確認する。	a 送水口の直近には、送水である旨の表示をした標識が設けてあること。 b 送水区域、選択弁及び送水口を明示した系統図が設けられていること。

イ 機能試験

試 験 項 目	試 験 方 法	合 否 の 判 定 基 準
配 管 耐 圧 試 験	送水口から、水圧試験器等により1.75 MPaの圧力で加圧する。ただし、開放型ヘッドの場合には、ヘッド取付け前に行う。	圧力の降下、漏水、各部の変形等の異常がないこと。
送 水 機 能 試 験	動力消防ポンプを用いて送水し、選択弁及び一斉開放弁の作動を確認する。 開放型ヘッドを設けるもので、放水に支障のあるものにあつては、ヘッドと一斉開放弁の間の制御弁を閉鎖し排水弁を開放して行う。	a 各部から漏水がないこと。 b 選択弁を操作した場合、送水区域に対応した一斉開放弁が開放すること。 c 選択弁、制御弁、排水弁等のバルブの操作が容易に行えること。 d 排水弁を操作した場合、有効に排水が行えること。